

## 酪農の夢

公益財団法人 中国四国酪農大学校 酪農科 1年 財部 香奈愛

「将来は立派な酪農家になりたい」。私がこう思うきっかけをくれたのは、実家で飼育している牛たちのおかげです。小さい頃は大きな体に大きな吐息、よだれは垂らすしたまに鞭のようなしっぽで思いっきりたたいてくる牛が嫌いで仕方なかったです。そしてあの大きさが怖くて一歩も牛に近づくことができませんでした。小さい頃はよく牛と喧嘩していました。それほど私は牛が大嫌いでした。自分がこんなに牛のことを好きになると全く思っていなかつたので幼少期のころから振り返るとそんな転機を与えられる牛の魅力はすごいなと思います。

私の実家は約60頭の牛を飼育している酪農家です。酪農という仕事は毎日1日に2回乳を搾らなければ乳房炎になってしまいます。そのため幼少期から休みの日は遊びに連れて行ってもらいたくともどこにも連れて行ってもらえませんでした。そのため私はそんなに忙しい仕事なんてやめてしまえばいいと思っていました。牛も酪農という仕事も大嫌いでした。そう思いつつも家族経営の我が家は人手が足りない為、私たち兄弟姉妹は小学校の時から学校が終わるとまっすぐに牛舎に向かい、夜遅くまで黙々手伝いをしてきました。

私は好きでもない牛の世話を毎日嫌々やっていたため更に牛とこの仕事が嫌いになりました。そんなある日哺乳している子牛と目が合いました。愛情のかけらもなくただ哺乳しているだけの私を信用しきってキラキラの目でまっすぐ見つめています。一生懸命にミルクを飲んでいる子牛を改めて見て「牛って意外とかわいいかも。どうして今までそれに気づけなかったのだろう」と思いました。そして私が愛情をもって大切に接すれば接するほど牛たちも答えてくれることを知りもっともっと牛に関わりたいと思うようになりました。牛との関りが深くなるにつれ酪農という仕事に興味を持つようになりました。私は4兄弟の末っ子で、家の仕事は兄が継ぐことになっていたので私は「将来は自分の力で酪農経営をしたい」と思うようになりました。早速このことを家族に話したところ賛成してくれると思っていた家族から「女のお前に酪農経営は無理だ」と思いもよらない言葉をかけられました。その時私は自分が女性ゆえに感じた偏見や悔しい思いが込み上げてきました。せっかく見つけたと思った夢をつぶされた、そんな気持ちで、一瞬燃え上がった私のやる気は一気になくなりました。

そんなある日、非農家から高校の授業で酪農に興味を持ち、大学で酪農のことを詳しく学んだ後アルバイト先の酪農家さんの経営を継いだ方を知って、非農家の方でもここまでしっかりと夢を叶えられるのだから、私にだってできないはずがない、と思えるようになりました。諦めかけていた夢を再び見つめなおすきっかけになりました。

その後私は地元の農業高校に進学しました。授業では多くのことを学ぶことができ、実習や当番では家とは違う手入れや餌の配合など今まで知らなかったことを知ることができました。入学と同時に入部した畜産研究部では、家ではしない毎日の牛洗いや毛刈り、調教をするようになり、最初はなかなか思うように動いてくれない牛に憤りを感じるようになりましたが、毎日欠かさず調教することで、牛との信頼関係ができ、いうことを聞いてくれるようになり、そうなると牛が可愛くてたまらなかったです。

その後牛のことを更に詳しく学び、全国の酪農家を回り視野を広げたいと思うようになりました。進学先を考えているときに高校の先生から中国四国酪農大学校を進められたことをきっかけにこの学校のことを調べていると全国各地の酪農家に研修に行くカリキュラムがあることを知りました。また大型特殊自動車免許、家畜人工授精師や家畜体内受精卵移植師、削蹄師、家畜商などの将来酪農経営をするにあたって必要な資格を多く取得できることを知りました。私はこの学校に非常に魅力を感じ私が学ぶところはここしかないと思い進学を決めました。そして進学した今、日々の授業では多くの学びがあります。今まで知らなかった餌のことや繁殖のことを学ぶようになり、毎日新しい発見がありとても楽しいです。実習では学生みんなで牛の世話ををして、牛が体調を悪そうにしていると自分たちで解決策を考えるのが私は一番面白いです。先輩方の知恵がとても多いので私も先輩方のようになりたいと目標をもつことができます。私はこの学校で資格取得に一番に力を入れて卒業するときに一人前に近づいて恥ずかしくない自分で卒業したいです。

高校の実習で酪農家さんが、子供たちに向けて「酪農教育ファーム」を行っている動画を見る機会があり、私は「これだ」と思いました。将来は女性酪農家として生乳生産をするだけの牧場ではなく、人間に利用され食べるために生まれてきた乳牛のかわいらしさや、命や食のありがたみを実際に牛に触れてもらいながら、子供たちに伝えられる牧場経営をしたいとはっきりイメージするようになりました。食料自給率の低迷が問題となっている日本で生乳は100%国産の食品。そんな仕事に誇りをもって、子供たちに伝えられたらどんなに素晴らしいだろうと思います。

その夢を叶えるためにこれから学校生活では日頃の授業や実習では新たな学びをたくさん見つけたいと考えます。女だから酪農経営はできないと言った父親に、女でもできると納得させたいです。そして、納得してもらうために知識・技術の更なる習得に日々励みたいと考えています。卒業後は一度実家に戻り家族と将来の話をしっかりとし納得してもらいたいと思います。そしていつか私自身が女性酪農経営者のモデルとなり、経営を目指す若い世代や女性を増やしていくたらと思います。酪農の世界も、機械化やデジタル化が進み、作業の負担も軽減されつつあります。「きつい」、「汚い」、「臭い」の3Kではなく「きつくない」、「きれい」、そして「かっこいい」新3Kのかなえスタイルの酪農の夢を叶えてみせます。

---

この産業がこれから先100年後に残っているかはわからないですが、それでも私は牛と一緒にいたいです。大好きな牛と一緒にいることを仕事にできたらこれ以上の幸せはないと思います。